

新年のごあいさつ



松浦市長
友田 吉泰

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年を顧みますと、まず、市民皆さまにとりましても希望の西九州自動車道調川ICから松浦IC間が去る12月15日に開通いたしました。

これまで本事業の推進にご尽力を賜りました本県選出の歴代国会議員の皆さまをはじめ、国土交通省、長崎県並びに関係皆さまに深甚なる敬意と感謝を申し上げますとともに、貴重な用地をご提供いただきました地権者皆さまに対し、改めて心から御礼を申し上げます。

次に、平成30年度長崎県高等学校駅伝競走大会男子の部におきまして、松浦高校陸上部が平成24年の初栄冠から実に6年ぶり2回目となる優勝を果たしました。更に、長崎県代表として挑んだ昨年末の都大路での選手たちの懸命な走りは、郷土へ感動と元気をもたらすとともに、彼らの活躍によって、全国に「松浦」の名が知れ渡ったことは大変喜ばしい成果であり、嬉しく思っております。

また、昨年8月には今福町に松浦市野球場が完成し、12月1日から「青のまち松浦スタジアム」の愛称で一般供用を開始することができました。野球場の整備にご尽力いただきました松浦市野球連盟をはじめ、関係皆さまに厚く御礼申し上げます。

一方、昨年の夏は日本列島が連日の猛暑に包まれ、本市でも熱中症によって市民の尊い生命が奪われたほか、各学校や施設などでも例年以上に体調不良を訴え、或いは重症化し、救急搬送される方が急増するなど、安全・安心な暮らしを確保するうえで、大きな課題を残す1年となりました。

迎えた新しい年は、5月1日の皇位継承によって、新しい元号に改められることから、「平成」として迎える最後の年となります。そのような中、本市においては、経済活動を支えるための大型事業が昨年に引き続き推進されます。まず、九州電力松浦発電所2号機の建設は、本年12月の営業運転開始を控え、最終段階に入っていくものと思われれます。松浦魚市場の再整備についても、昨年着手した市場機能の中核となる荷捌き施設の工事など、本事業の最盛期を迎えることとなります。

そして、いよいよ独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）による（仮称）松浦中央病院の開設に向けた整備が本格化してまいりますし、本市が進める（仮称）市民福祉総合プラザの建設工事も大きく動き出す1年となります。

このほか、鷹島地区においては、鷹島小・中学校の新校舎改築工事が具体化してまいります。一方、福島小中学校整備事業については、計画に沿って最後の仕

上げの時期を迎えることとなります。このように、さまざまなハード事業が目に見える形で進む一方、生活に身近な子育て支援や高齢者の健康といきがいを支える活動は、市民皆さまのご協力によりまして、年々充実しているものと受け止めております。

また、本市の知名度アップとそれに伴うさまざまな波及効果をもたらすことを目指し、昨年から取り組んでおります「アジフライの聖地」に向けた動きについては、本年のゴールデンウィーク中に聖地宣言を行うなど、本市にとっても「アジフライ元年」として記念すべき年を迎えることとなります。

私は、昨年2月5日から松浦市の舵取り役を受け継ぎ、市民皆さまとの対話を基本姿勢として、市民の声や期待に応える政策の実現に挑戦してまいりました。引き続き市民皆さまと共に「住み続けたいを実感できる」まちづくり、「地域が潤う」産業づくり、「安全・安心に暮らせる」まちづくり、そして、「次代を担う」ひとづくりを政策の柱に、成果を実感できる施策に取り組んでまいりますので、ご支援並びにご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとりまして、実りのある1年となりますよう祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。



松浦市議会議長
椎山 賢治

明けましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのこ
 とと、心からお喜び申し上げます。また、日頃から、市政発展のために
 多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私も議長に就任し、まもなく一年を迎えることとなりますが、新しい
 年を迎え、その責任の重さをあらためて感じるとともに、松浦市の更な
 る発展のために、引き続き努力してまいりたいと決意を新たにしてお
 ります。

今、人口減少・少子高齢化社会の到来により、国も地方も大きく変革
 する中で、地方の果たすべき役割や責務がますます重要となっております。
 本市においても、今後の限らない発展と市民福祉の更なる向上を目
 指し、さまざまな課題に注力しているところでございます。

市議会といたしましても、議会改革特別委員会を設置し、市民の皆さ
 まに身近な議会となるよう、議会の活性化に取り組むとともに、皆さま
 方と一層の連携強化を図りながら、皆さまの声を行政に届け、適正な行
 政運営の監視役としての機能を強化することで、市民満足度を高めてま
 いりたいと思っております。

皆さま方には、昨年にも増してご支援、ご協力を賜りますようお願い
 申し上げます。

結びに、市民皆さま方のますますのご多幸とご繁栄を心からお祈り申
 し上げ、新年のごあいさつといたします。



オーストラリア・マッカイ市長
グレッグ・ウイリアムソン

マッカイ市から「明けましておめでとうございます！」

昨年はマッカイ市にとって繁栄と発展の一年でした。新しく企画した
 一連のプロジェクトがほぼ完了しました。「シユガー・ボール」と名付け
 られた新しいスケート・パークの公園もそのひとつです。この公園は、ク
 イーンズランド州のスケートボードボーダーの間では羨望の地となっています。

そのほか新規インフオーメーション・センターと「マッカイARC」と
 というスポーツ施設が2019年の初めに完成する予定であり、クイーンズ
 パークの改修工事も進んでいます。

一年間には良いこともあれば悪いこともあります。昨年11月に発生し
 た山火事では、300,000ヘクタールの森林といくつかの建物が焼き
 尽くされました。(幸いなことに死者はいませんでした)その後、雨が降り、
 既にヤンゲラやパイオニア谷に新芽が芽吹き、施設や企業も再開して、観
 光客が戻ってきています。

昨年の、バイライトのひとつはもちろん、姉妹都市交流事業でした。7月
 に友田市長をはじめ、第16回松浦市民親善訪問団を迎えました。訪問の期
 間中に開催した第1回ビル・モロイ記念杯ゴルフ大会には、多くの団員が
 参加してくださいました。この大会は、これまで両市の友好関係に多大な
 貢献があったビル・モロイ氏への感謝を込めた大会であり、これからも大
 会を継続していきたいと考えています。

8月には、松浦市青少年親善使節団の訪問があり、とても楽しく交流で
 きました。彼らは大変礼儀正しく、熱心さが伝わりました。

9月には、マッカイ市の青少年使節団が、松浦市を訪問しました。松浦
 市のみなさん、生徒たちをあたたく迎え、たくさんの素晴らしい思い出
 を作っていただき心から感謝申し上げます。

今年には姉妹都市提携満30年という記念の年です。その記念すべき年に、
 また、皆さまにお会いできることを楽しみにしています。

最後にマッカイ市を代表して、松浦市民皆さまが繁栄に満ちた2019
 年をお過ごしになることを心から祈念いたします。